平成２５年度第２回「新潟市子ども・子育て会議」　会議録

開催日時：平成２５年１０月１日（火）午前１０時～正午
会　　場：新潟市役所　第一分館　６階　１－６０１会議室
出席委員：阿部委員、飯塚委員、大竹委員、菊池委員、小池委員、椎谷委員、鈴木委員、田巻委員、中島委員、平澤委員、福山委員、前田委員、丸山委員、みの委員、三村委員、森委員、山賀委員、山田委員、山本香織委員、山本良子委員、横尾委員（２１名出席）
欠席委員：佐藤委員（１名欠席）
事務局出席者：こども未来課　堀内課長、小沢課長補佐、佐藤企画管理係長、企画管理係主事金子、本間育成支援係長、高澤育成支援係主査
保育課　島田課長、中村保育課長補佐、猪爪管理係長、井口保育園再編企画室主事
教育総務課　上所教育政策担当課長、阿部副参事、奥村企画室主査
学校支援課　白澤副参事
地域と学校ふれあい推進課　河内課長
委託業者：(株)新潟富士薬品・アシスト(株)共同事業体 田口研究員, 五十嵐研究員補佐
傍聴者：有　２名

会議内容

１　開会

（事務局：こども未来課長補佐）

改めまして、皆さまおはようございます。それでは、定刻となりましたので第 2 回新潟市子ども・子育て会議をこれより開会いたします。本日の司会を務めさせていただきます、こども未来課の小沢でございます。よろしくお願いいたします。

本日は、前回ご欠席でした阿部委員が出席いただいております。前回、皆さんから一言、自己紹介をいただいておりますので、阿部委員から一言、自己紹介をいただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

（阿部委員）

おはようございます。初めまして、医療法人健進会に勤務しております。ずっと看護師をしてまいりました。30 年間の看護師の経験がありまして、20 年間は 3 人の子育てをしながら働かせていただいています。執行委員長という役をしながらの子育てと、看護師として今までやってきたことが皆さんの役に立てればと思いますので、また今後ともよろしくお願いします。

（事務局：こども未来課長補佐）

ありがとうございました。それでは、議事に入ります前に、資料の確認をお願いいたします。

まず本日の次第、委員名簿、資料 1 といたしまして「新潟市子ども・子育て会議各部会委員構成名簿（案）」、資料 2 といたしまして「『新潟市子ども・子育て支援ニーズ調査』について」、A4 横のものです。資料 3、国の調査票のイメージと対照表、これも A4 横版のものでございます。よろしいでしょうか。資料 4－1 といたしまして「新潟市子ども・子育て支援ニーズ調査ご協力のお願い」ということで、A4 縦に変わります。4－2 といたしまして、同じく「新潟市子ども・子育て支援ニーズ調査ご協力のお願い、小学生の保護者の方へ」というバージョンのものです。それから資料 4 別紙といたしまして、A4 縦の 1 枚ものになりますが、施設サービス一覧です。資料 5「ニーズ調査の論点」、これも A4 縦の 1 枚ものです。資料 6 といたしまして「『子ども・子育て新制度』に対する意見・質問書」です。これは新潟市私立幼稚園協会様からの A4 縦版のものです。以上になりますけれども、資料等、皆さま、ございますでしょうか。では、進めてまいります。

本日は佐藤委員 1 名が欠席されておりますけれども、半数以上の委員のご出席をいただいておりますので、本会議条例第 6 条第 2 項の規定により、本会議が成立しておりますことをご報告いたします。なお、椎谷委員、山本香織委員におかれましては、途中からの出席になる旨、ご連絡いただいております。それから、佐藤委員、山本香織委員からは、事前に意見を預かっておりますので、後ほど事務局よりご報告をさせていただきます。

また、当会議は公開となっております。本日は 2 名の傍聴者がおりますことを併せてご報告させていただきます。

併せまして、本日の会議につきましても、会議録を作成する都合上、会議内容を録音させていただきたいと思いますので、あらかじめご了解をいただきたいと思います。

それでは、これより先の議事につきまして、会長より進行をお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。

６　議事

（１）部会長および臨時委員の指名

（森会長）

それでは、早速はじめさせていただきます。会長を仰せつかっています、新潟市小学校長会の森です。よろしくお願いいたします。

それでは、次第に沿って進めさせていただきたいと思います。まず次第の（1）「部会長および臨時委員の指名について」です。前回、会議の際は、一部の臨時委員が選定中でしたが、今回、臨時委員 4 人全てとそれぞれの部会の部会長についても、資料 1 のとおり、事務局案が示されております。ご覧の案のとおり、指名させていただきたいと思いますの

でよろしくお願いいたします。よろしいでしょうか。

（委員一同）
【拍手】

（森会長）
では、よろしくお願いいたします。特に部会長の皆さま、よろしくお願いいたします。

（２）ニーズ調査について

（森会長）
それでは次第 2－（2）「ニーズ調査について」です。初めに事務局から説明をお願いいたします。

（事務局：企画管理係長）
おはようございます。子ども未来課の佐藤でございます。本日もよろしくお願いいたします。資料に基づきまして、説明させていただきます。皆さん、資料 2「『新潟市子ども・子育て支援ニーズ調査』について」という資料をご覧ください。なお、時間が限られておりますので、駆け足となりますがご容赦ください。

まずニーズ調査の概要についてです。資料 2 の 1 として、調査の目的ということで記載してございます。これから策定する事業計画における量の見込みを設定するため、このニーズ調査が必要ということが書いてございます。

2 番、調査の実施方法についてです。（1）として、把握方法を記載してございます。対象年齢の子どもがいる世帯に郵送方式による抽出調査とし、区域としては行政区の 8 区を設定いたします。

2 ページをご覧ください。（2）として、対象年齢および対象の施設・事業を記載させていただきました。なお、就学前児童については国が案を示しているように必須、小学生については国でも議論がありましたが、結果、自治体に委ねるとされましたので、任意ということで記載してございます。

就学前の児童につきましては、前回参考としてお配りした国が示した基本指針において、ニーズ調査によって利用状況、利用希望を把握し、量の見込みを作成する際の参考とすべきとされている幼児期の教育・保育、それから法定されました 13 事業のうち 8 事業を記載しました。

任意調査とされました小学生につきましては「放課後児童クラブほか」となっておりますけれども、就学前の児童と同様に、現在、小学生も対象としている事業として、子育て短期支援事業、ショートステイの事業と病児・病後児保育事業、病児デイサービス事業がありますので、これについてもアンケートの項目として設定いたしました。

続きまして 3 ページをご覧ください。(3) として、調査対象者の抽出について記載してございます。完全にランダム、住民基本台帳から対象者を無作為で抽出いたします。回収率を 50%と想定した上で、統計上、推計が可能となる数が得られるよう、配布数を設定いたしました。それが各区それぞれ 750 件となります。

(4) といたしまして「調査のポイント」を記載してございます。委員の皆さま、それからシミュレーションをやった職員、市民の方からの意見も踏まえると、やはり推計に必要な回答数をぜひ確保しなければならないということで、回答者の負担を軽減するために任意項目の設問の精査、項目の並び替え、用語の言い換えなどを行いました。また、用語や利用料などを別紙で説明し、ここには過大としか記載されておりませんが、ニーズが過大、反対に過小にならないよう、なるべく正確なニーズが可能な限り出るよう、配慮いたしたつもりでございます。

また、丸の三つ目、前回の会議でもご意見をいただきましたが、回収率を上げるため、ニーズ調査の案内について、保護者の方が目にする機会がある関係施設に案内掲示、チラシ・ポスター的なものをお願いしたいと考えております。

本日、参考資料として、前回もお配りしましたが、国の示した調査票も配布してございます。国の示した設問全てをお聞きすれば、いろいろなニーズが取れるかもしれませんが、それで回答率が下がりまして、ニーズそのものが不確実になることが最も避けなければならないことだと考えまして、本日の案を作成し、提示した次第でございます。

資料 4 ページ、5 ページには、調査票の構成について、見出しとなる部分を記載してございます。これは見出しを抜き出した目次的なものでございます。

続きまして 6 ページをご覧ください。今後のスケジュールを大まかに記載してございます。今月末を目標として調査票を発送し、今年中に集計作業、単純集計にはなりますが、今年中に行って、この会議にもご報告したいと考えています。会議の日程につきましては、年末年始を挟みますので、目途がつき次第あらためて調整させていただきたいと思います。

以上、簡単ではございますが、資料 2 の説明を終わらせていただきます。資料 3 から資料 4、別紙につきましては、説明を省略させていただきます。配布したとおりでございます。資料 3、ニーズ調査の国との対照表、資料 4－1、4－2、就学前児童、小学生についてのそれぞれの調査票、ニーズ調査票の別紙ということで、資料を作成いたしました。

本日配布の資料 5「ニーズ調査の論点」をご覧ください。直前のご案内で大変申し訳なかったのですが、ぜひ本日、特にご議論いただきたい内容を用意させていただきました。

1 点目として「表紙等について」と記載してございます。調査票の 1 枚目、表、裏面について、この調査票が届いた方は非常にお忙しい、子育て中の大変お忙しい方たちだと思います。その方たちが「よし、これならば、ぜひ回答しよう」と思えるかどうか、そういった点で議論いただければと思います。

それから 2 点目として用意しました別紙「施設・サービス一覧」。資料で言いますと、資料 4 別紙になりますけれども、この別紙にする方式、用語について適当かどうか、ぜひご

意見をいただきたいと思います。

それから 3 点目としまして、今後、環境整備を行い、進行管理もしていかなければならない部分でございますので、独自設問としてアウトカム指標をもう 1 点、設けさせていただきましたが、この設問自体が適当かどうか。例えば 3 年後、5 年後、毎年これを測るに当たって、この独自設問でアウトカム指標として適当かどうか。こういった点を特にご議論いただきたく、よろしくお願いいたしまして、簡単ではございますが、私の説明は以上でございます。会長、よろしくお願いいたします。

（森会長）

ありがとうございました。では、大変、時間が限られていますので、建設的な議論ができるよう、代替案を述べていただくなど、ご協力いただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

それでは、まず就学前児童の調査票について、資料 5 の論点 1 から 3 について、ご意見をいただきたいと思います。その後、就学前児童の調査票の全般についてご意見をいただいてから、小学生の調査票というふうに移っていきたいと思います。小学生の調査票についても議論する時間が確保できるように進行させていただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

では、まず論点 1、表紙等について、素案の資料 4－1 の表紙をご覧になってご意見等をいただきたいと思います。この表紙を見て、中を開く気になるかという点、お願いいたします。

（田巻委員）

公募委員の田巻です。2 点あります。キャッチコピーがほのわちゃんの吹き出しだと思うのですけれども、色ですよね。それによって、要は一番上のものはきちんとした正式名称だと思いますけれども、今、会長もおっしゃったとおり、とにかく 2 ページ目以降をめくろうという気持ちにさせるかどうかというのは、ひとえにキャッチコピーとかそういう見方が大事だと思います。

そうすると、色使いとかかなりそういうところが大事だと思うのです。今のところの見込み、予定で結構ですので、どんな感じになりそうか、うかがいたいと思います。

（事務局：こども未来課企画管理係長）

はい。今、色の話が出ましたが、カラーとしては白黒になります。紙の色が薄いオレンジというか、アイボリーというか、あの色で今、調整をしています。予算の都合等もありますが、カラーではないということだけは確かです。以上です。

（森会長）

カラーではないのだそうです。はい、どうぞ。

（田巻委員）
そうすると、要はほのわちゃんが言っていることを訴えたいわけですよね。それをどうやってアピールしていくか。要は回答率を上げるということに非常に大きく左右する大事な要件だと思います。とにかくこういうものというのは、めくってもらってなんぼのもので、めくる気になってもらわないと困るわけですよね。その辺がどうかなと。
例えばせめて表紙だけカラーとか、見た目が何か、ハートを伝えるということで考えて何か工夫がないだろうかというのを、ぜひ皆さんのご意見をうかがいたいと思いますが、いかがでしょうか。

（横尾委員）
すみません。新潟市社協の横尾です。
今、田巻委員がおっしゃったところは私もこれを見て最初に思ったところで、このほのわちゃんが発しているこのメッセージをまず冒頭に持ってきたいと思いました。ほのわちゃんがつぶやくかどうかは別として、まずこのキャッチコピーなりメッセージを冒頭に持ってくることで、自分たちの意見が市政に反映されるということで、読み進められるのではないかと思いました。

（飯塚委員）
千葉大の明石先生といろいろ交流があったのですが、明石先生のアドバイスで「地域の子どもは地域で育てよう」というキャッチコピーをいただいているのですね。これを何とか採用していただきたいのです。地域も子育てに関心を持ってくれるということで、明石先生からキャッチコピーを前にいただいた経緯がありますので、ご参考にしてください。

（森会長）
ありがとうございました。はい、どうぞ。

（田巻委員）
ただの思いつきですが、この表紙の「就学前児童の保護者の方へ」という文面を表紙から 1 ページ以降に移す。つまり表紙は正式な、さっき委員の方も言われた、ほのわちゃんの吹き出しをトップに持ってくるというのは僕もありだなという気もするのですけれども、要は何だろうと思って 1 ページめくらせるためには、こういう「就学前児童の」という正式な行政的な文章をなくしてしまった方が、1ページ以降に送ってしまって、要はほのわちゃんのこれを大きくして、そうすると、次のページをめくってくれる可能性も出てくるかなと。全くの思いつきですが、いかがなものでしょう。

（森会長）
　それも大切なご意見だと思います。ただ、この次のページを送ると「アンケート調査について」と「記入にあたってのお願い」が、文字ばかりでざーっとあるので、それは避けなければと思います。

（事務局：こども未来課企画管理係長）
　会長、よろしいですか。山本香織委員からの意見をここで読ませていただきたいと思います。「表紙は文章が長く、読む気がなくなりました。できればフォントを最低 12 ポイントにし、文章を半分にする。この案でいけば、1 段落目、3 段落目、5 段落目だけあれば、意図は十分通じるのではないか」という意見がありましたので、途中ですが、ここで報告させていただきます。

（森会長）
　そのように、1 ページ目の文章が非常に堅くて長いというのと、キャッチコピーの方が訴える力があるので、キャッチコピーを上へ持っていって、この文面を短く下へ下ろすぐらいのことはできると思います。
　例えば、これは長いので、駄目なのですね。「就学前児童の保護者の皆さまへ」と書かなければ駄目なのです。「日頃より、新潟市政へのご理解とご協力をいただき、ありがとうございます。昨年８月に一人ひとりの子どもが健やかに成長することができるよう、『子ども・子育て支援法』が成立しました」。これだけでいいのですね。「新潟市では、この新しい制度のもと、さまざまな子ども・子育て支援の充実を図るため、市内の子育て家庭の皆さまからご希望をお聴かせいただきたく、アンケートを実施することとしました」ぐらいでいいです。「皆さまからご回答いただいた内容は、今後の子ども・子育て支援のありかたを決めるための重要な資料とさせていただきます」。これで、あと「つきましては」は要りません。これだと、基本的に半分でいけますね。半分に減らして、上と下をひっくり返すのです。

（阿部委員）
　すみません。この文章をわざわざここにつけないと駄目なのでしょうか。それを別紙にして「実はこういう目的で、こういうアンケートをしたいんですよ」というものを 1 枚の用紙に別として「このアンケート用紙はこういう目的でお願いしたいんです」ということは、ここでちょっと話をして、あとは、ここは先ほど言われたように、ほのわちゃんとか。ちょっと表紙だけでも、ほのわちゃんだけでも色付けしてもらうことはできないのでしょうか。

（森会長）
とにかく中を開いてほしい。開いて見てもらうためにどうするかということが今の一番の論点かと思います。

（椎谷委員）
椎谷です。やはり子育て中のお母さんにとって文字を読むというのはとても大変だと思います。
ただ、1 枚目にどういったものなのかという趣旨説明は必要だと思います。それで、多分、最初から最後まで読まないと思いますので、重要な部分を黒太字にして、例えば 5 行目の「新潟市では、この制度でアンケートを実施し、これを貴重な資料とさせてもらいます」という部分に関しては黒の太字にする。そのように、重要な部分だけを黒太字にして、あまり趣旨や、なぜこれをしなければいけないかというものをあまりカットせずにした方がいいと思います。
それから、確かにカラーというのは見栄えもいいと思うのですが、多分、それには予算がかかると思います。かけなくていい予算はかけなくていいと思います。
私は今回、このニーズ調査案を見たときに、だいぶ減ったと思いました。非常に読みやすく、書かなくていいものも明確になっているので、この部分では非常にいいと思います。
それから、この「日本一子育てにやさしい都市を実現するために」ということを知らないお母さんたちが多いと思いますので、新潟市はこういうふうに考えているということで、これは絶対に外さないで、これを上に持っていくか、下に持っていくかというところは、上に持っていった方がもしかしたら見栄えがいいだろうと思いますし、中身も見まして、多分、めくるとは思います。自分の手元に届いたら、必ずめくると思います。
ただ、何に使われるのかということは必ずカットしないようにしていただくことは大事なことだと思います。

（森会長）
ありがとうございます。とにかく趣旨が伝わるように、めくってもらえるものをということですが、その他、またご意見。実際にこれが届きそうな方で開くかどうかという何かありましたらありがたいと思います。

（小池委員）
いいですか。すみません。県立大学の小池です。今回、素案を見せていただきまして、前回に比べるとすっきりして、かなり良くなったと第一印象では感じましたので、そこは良かったなと感じております。
文章の長さについては、会長がおっしゃったように、少し文言整理をすれば、もう少し文章の量は減らせると感じますが、表紙にやはりきちんと趣旨を書いておかないと、変な

言い方ですけれども、新潟市さんでも年に 1 回、ニーズ調査を取っておられますので、それとの区別化がつかなくなると思います。これはそれらとはちょっと違って、今回の、これからの新潟市内の幼児教育、保育、子育て支援の仕組みをつくる大事な調査だということが分かるように、やはり表紙にはっきり明記しておくべきだと思います。

別紙でもいいのですけれども、別紙にしてしまうと、見る人、見ない人も出てくると思いますので、これはやはり一体化しておいた方がいいと思います。

私たちも研究でいろいろデータを取るのですけれども、必要なお母さんは、表紙もぱっと外して、手元に置いて、中だけ返ってきます。表紙がなくなっています。いろいろなご事情で、こういうことを私が答えたというふうに手元に置いておきたいお母さんのアンケート用紙が返ってくると表紙だけがなくなっている。どうしたのかなと思ったら、多分、連絡先などを取っておられるのですね。そういうこともありますので、きっと別にしなくても、むしろ見ていただく。このアンケートがそれらのアンケートとは違うということを明確にしておくことも大事だと思います。

あと、カラーは確かに望ましいです。私もできればありがたいですけれども、やはりそこまでしなくても、表紙のところにカラーの紙を使うとか、可能であれば、裏表紙にもう 1 枚、紙を付けて、前と後ろが 1 冊になるような感じにやっておくだけでも印象は違うと思います。優しい色合いのカラーのものが来ていれば、白黒だとちょっとかなと思いますけれども、手には取られると思いますので、そのように感じました。

（森会長）

ありがとうございました。だいぶ意見が出そろったと思います。文章は切れますが、カラーにはできないと。表裏くらいは色上質紙にできるかということですが、どうですか。

（事務局：こども未来課企画管理係長）

分かりました。裏表、表紙、裏表紙だけではなくて、製本する都合上、A3 の紙が多分変わると思いますので、そこがカラーにできるかどうか、ちょっともう一回、お金をはじいてみたいと思います。皆さんの意見はなるべく尊重したいのですが、ちょっと予算と相談させてください。

今ほど意見をいただいて、文章は短くして趣旨は必ず入れる。できれば、ほのわちゃんは上の方に持っていった方がインパクトとしてあるのではないかということで、今、私の中ではそんな理解をしていますけれども、なるべく手に取って、開いていただくような表紙にしたいと心掛けていきたいと思います。ありがとうございます。

（三村委員）

一つお願いします。

（森会長）
はい、どうぞ。

（三村委員）
ちょっと話を変えますけれども、最後のお問い合わせのところで、受付時間が平日 8 時半から 5 時半まで。働いている方は絶対に電話をかけられないと思います。ですから、ファクスやメールのところに「24 時間受付」と書くだけでかなり救われると思うのですけれども、いかがでしょうか。

（事務局：こども未来課企画管理係長）
それは修正したいと思います。

（三村委員）
それと、来たら必ず返信はしていただけますよね。

（事務局：こども未来課企画管理係長）
まず全庁的なルールでもあるのですが、メールを受け取ったら「受け取りました」と返しますし、お答えができ次第、速やかに返したいと思います。そのようにさせていただきます。

（森会長）
ありがとうございました。続きまして、ニーズ調査の論点 2、別紙「施設・サービス一覧」、および用語についてでございます。これは別紙にしてあるのですが、そもそも別紙にする方法はこれでいいのか。別紙の内容は妥当か。用語の置き換えはちゃんと伝わるか。そのようなもので見ていただきたいと思います。資料 4 の別紙です。

（中島委員）
中島です。この別紙の説明について、分からないお母さんはこういう説明があると、なるほどと思って分かりやすいと思います。
分かりやすいとは思うのですけれども、その内容と利用料が一緒の欄になっていて、だーっと真っ黒になっているので、せめて内容は内容、利用料はまた項目を別にして、隣のところに「利用料」という形で分けて、少しでもすっきりと見やすくできるような形を取ってみてはいかがでしょうか。ほんのちょっとしたことなのですけれども、それだけでも分かりやすい。隣で見合わせられるということでいいかと思うのですけれども、そこのところはどうでしょうか。

（山本良子）
公募委員の山本と申します。私もこの表を拝見しておりまして、ちょっと見にくいと感じました。読んでいますと「新潟市の事業として実施しているものはありません」というのも結構ありますので、まず1番として、新潟市の事業としてあるもの、2、新潟市の事業としてはないが、こういった保育施設もあるということで、2段階というか、二つに分けてはいかがでしょうか。

（三村委員）
三村です。私も今のお話で質問をしようと思ったのですけれども、ないものは書かなくていいのではないでしょうか。それとも、その中に対応する部分があって、どうしてもこれを書かなければいけないのですか。ないものはなくていいのではないかと思います。

（森会長）
設問の中に使われている言葉があると、なくても説明は必要なのですが、設問の中に出てきますか。

（事務局：こども未来課企画管理係長）
問11から出てきます。資料4－1でいきます。6ページ目、問11－1、こういうところに出てきます。
意図としましては、ほとんど例はないかもしれませんが、万が一、お勤め先が新潟市外で、新潟市外の施設・サービスを使っている方もいらっしゃる可能性があります。
それから、われわれは特段、今、届出がないので、把握はしていないのですが、もしかすると「家庭的保育」や「居宅訪問型保育」を実際に使っている方がいらっしゃるのではないか。われわれは全てを把握しているわけではございませんので、そういった意味でこのような設問になっております。
7番の「自治体認証・認定保育施設」は新潟市にはないので、ここは実際に、われわれは0だと把握しているのですが、新潟市外にないとも限りません。それから、国の方でも「項目としては載せてくれ」という回答をいただいておりまして、このような形になっております。

（森会長）
そうすると、現在、新潟市にないものについては、最後に持っていってもいいかもしれませんね。そうすると、新潟市にあるものは基本的に利用料も全部、記載されているので、先ほどの内容と利用料で区分して記載でき、新潟市にないものについては説明の最後に持っていって仕分けはできると思うのです。表記上の区分はできると思います。

（事務局：こども未来課企画管理係長）
　では、山本委員、中島委員がおっしゃるように、やっているものを先に持ってくる。それから列を三つ作って、内容と利用料を別々にする。順番を変えることになりますので、できれば先ほど見ていただいた問 11－1 の順番についても、新潟市がやっているものを先に持ってきて、やっていないものを後半に持っていくような形で整理したいと思いますが、そんな形でよろしいでしょうか。

（森会長）
　それでよろしいでしょうか。では、意見が反映されます。よろしくお願いいたします。
　今、表記の仕方についての話になっていますが、表記の内容、「この言葉はどうも」というものがありましたら、ご指摘をお願いいたします。

（小池委員）
　小池です。認定こども園の説明がちょっと分かりにくいというか、それこそ今、研究の方で取っているデータで、お母さんたちの声で、私たちもちょっとうっかり、「認定こども園」という言葉をごく普通に入れてアンケートを採ったら、自由記述のところで「こども園が分かりません」というのが結構出てきたので、私たちが思っているほど、まだ区別がついていないというか、認識がされていないのだなということをあらためて実感しています。
　ここの記述を、要するに幼稚園、保育園の方に誰が預けられるのかということも、ちょっと分かりにくいですね。上の幼稚園、保育園は、例えば年齢があって入っているのですが、認定こども園の方は特に制限はない。就学前の子たちとはなるのでしょうけれども、その辺をもう少し分かるように、どういうお子さんたちが入園できるのかということも含めて、もう少し丁寧に書いた方がいいという印象があります。

（森会長）
　これをもう少し丁寧にということになりますね。

（小池委員）
　そうです。はい。

（平澤委員）
　ちょうど今の小池委員のご意見に関係することなのですが、まず用語については国の示しているものがありますけれども、私がよその県の例をお聞きしますと、非常に用語の定義については簡略化をされている方向です。
　しかし、答えやすくということで、別紙は大変丁寧に書いてありますが、今、小池委員

から認定こども園の説明ということで、これは国が「幼稚園と保育所の機能を併せ持つ機能、施設」という言い方で通しておりますが、それに対して砕いてこういう書き方なのでしょう。とにかく認定こども園については、私ども保育園、あるいは幼稚園の団体から「表現については十分配慮してくれ」というお願いが出ております。

つまり「幼稚園と保育所の機能を併せ持つ」という言い方をしますと、幼稚園のいいところと保育園のいいところを一緒に持っているのであれば、一番素晴らしいところではないかというイメージが生まれます。的確な表現は難しいと思いますが、そこで私が言いたいのは、国が示しているとおり「幼稚園と保育所の機能を併せ持つ施設」という言い方と、それから今、小池委員から出ましたが、それでは誰が利用できるかという意味では、何歳うんぬんという言い方もあってよろしいと思いますが、「教育、保育を提供する機能と子育てを行う機能を備えた県の認定を受けている施設」という言い方は、必ずしも要らないのではないかという感じがいたします。

そして、先ほどから出ておりましたが、ご丁寧に利用料等が示されております。利用料については別枠で表示するというご意見が出ましたので、その方向になるかと思いますが、細かいことを申し上げて恐縮ですが、保育園については、月額 0～5 万 7,200 円という書き方になっております。これについても、例えば 3 人在園したら最大 5 万 7,200 円×3 になるとか、そんな誤解もあると困りますので、きょうだいが同時入園の場合には減額等の処置があることにもちょっと触れていただいた方が、幼稚園の方も保護者の税額やきょうだいの人数に応じた補助制度があるという表現もございますので、その辺は細かいといいますか、分かりやすい表現を示していただければありがたいと思います。

全般的には大変ご丁寧だと思いますので、むしろこの別紙については、全体的には簡略化をしてもよろしいのではないかと思います。

最後に「SKIP」や市のホームページも示されておりますから、これで興味を持ってくれた方はここにまたお尋ねといいますか、アクセスといいますか、そういう方法を取ると思いますので、これは構成さえ変えれば、別紙は十分過ぎるぐらいではないかと思います。以上でございます。

（森委員）

ありがとうございます。別紙を一生懸命作ったかいがあったと、最後にお褒めの言葉もありましたが、若干分かりやすくということもありますので、よろしくお願いいたします。その他、別紙についてはございますでしょうか。はい、お願いいたします。

（山賀委員）

今ほど皆さんからご指摘いただいたことにある意味ではちょっと疑問を投げ掛ける部分もあるのですが、実は私個人としては福祉施設を経営していまして、福祉サービスをいろいろな方に利用していただいています。実際に利用者の方に「自分がどのサービスを利用

しているのか」と尋ねると、実はよく分かっていない方が多いです。園の名前としては「何々園を利用しています」というのはあるのですけれども、「その中でどういうサービスを使っているのですか」というと、そこまで実はよく分かっていない方もいらっしゃるケースがあります。

こういうふうにいろいろなアンケートの項目をやっていくと、分からないという場合もところどころ必要になってくるというのが実はあります。「分からない」という欄がないことによって、そこで結局、蹴つまずいてしまって、その先に行けなくなってしまう方もいて、最終的に回収率が落ちることもあるのかもしれないので、ここも含めて、設問によっては「分からない」ということが可能なのかどうなのかというのもご検討いただければと思います。

これは全部、答えられるであろうという前提で全部、設問を考えているので、「その他」というのも、ちゃんとそれに代わる回答があるはずだという前提なのですが、中にはどこにどう書いていいのか分からないというところも、中には保護者によってはあるかなというところを、どのようにこの中に反映させていけるのかというのは感じました。以上です。

（森会長）

ありがとうございました。今のは、ニーズ調査全体についてのご意見かと思います。

それでは、3 の独自設問「子育ては楽しいか」（問 26）について、お願いいたします。

（山本良子委員）

私自身、小学生から幼稚園年中児まで、4 人の子育てを 9 年間しておりまして、この調査の対象者になるのですけれども、この設問を見まして、実際に子育てをしていて、とても楽しいと感じるときもありますし、苦しさやつらさが先行して全く楽しめないときもありました。ですので、これのどれか一つに丸を付けるというのは非常に難しいと思います。

子どもの月齢や年齢だけにそういったことが影響されるのではなくて、例えば急に子どもが病気をしたとか、自身の体調とか、あるいは周りの方、ご主人が単身赴任中であるとか、同居の祖父母の方の介護もあるとか、そういったいろいろな状況があって、そういった生活スタイルの違いによっても、子育ての負担度というのは毎日のようにめまぐるしく変化しているというのが実情です。

例えばこの設問を「子育てを大変だと感じるときがあるかどうか」という形にして、イエス、ノーでお答えいただいて、その後に「どういうときにそう感じるか。子育ての環境がどのように変化すれば、どういうサービスがあれば、子育てを楽しいと感じるか」というような、2 段階ないし 3 段階の設問で、その下の自由記載のように設定していただかないと、ちょっと真のニーズは掘り起こせないのではないかと思いました。

そもそもこの調査票が保育の量的なニーズ面を充実させるという目的の比重がとても大きいように思っておりまして、むしろ質的な面でのニーズ調査がないがしろにされている

のではないかという感も否めないと思っています。ただ、子どもの預け先が多いということが充実した子育て制度とは言えないですし、私自身も一時預かり保育等を利用して、採用等で残念な思いをしたこともありますので、新潟市の保育に関わる保護者の皆さんの本当の思いをすくい取るこうした設問こそ精査していただきたいと思っています。以上です。

（森会長）
今の指摘はどうでしょうか。もう少し丁寧な設問にしてほしいという要望かと思います。

（田巻委員）
最初に 3 番のところで使われた「アウトカム資料として」という、そのアウトカム資料という言葉の意味が事務局の説明の中にあったと思います。それが分からないのですけれども、ちょっと説明していただけますか。

（事務局：こども未来課企画管理係長）
アウトカム指標ということで。すみません。アウトプット、どれだけの実績があったと。アクションプランのときにも「これだけの利用実績がありました」「何百人ありました」だから、どういう効果があったのかというところまで踏み込んでいない指標だというのが、鈴木先生をはじめ、いろいろな方から意見をいただきました。
なので、こういった制度なり環境を整備したことで、どういった成果があって、どういった気持ちの変化や満足度がどれくらい向上したのかということを測りたいということで、こういった設問を設けたいと思いました。
問 25 については、要するにこれは国の調査票で示されたものです。私たちは毎年、子育て市民アンケートということで、「新潟市は子育てしやすい町ですか」という設問を聞いています。実際、そのようにも考えたのですが、これは全国的に調査する調査です。恐らくほとんどの市町村は、小さい市町村も含めて、設問は恐らく変えてこないのではないか。そうすると、全国比較ができそうなことということで、あえてここは変えませんでした。新潟市がどのくらいの位置にいるのかが測れます。
ただ、これだけだと、地域の子育て支援の全体のことは比較できるのですけれども、自身の内面、個人の内面について、やはりもう一つ評価が欲しいということで、問 26 のような設問を設けました。
問 25 の「お住まいの地域における子育ての環境や支援への満足度をお答えください」。これは国の設問どおり、全国比較が容易ではないか。それから、地域全体のことではなく、その人個人個人のどのぐらい内面というか、思いを調査、今後の経年変化も見たいということで、問 26 を設けた次第でございます。
以上、説明になっているか、なっていないか、分かりませんが、私から回答させていただきます。

（森会長）
先ほどの山本委員の指摘についてはどうですか。これを例えば問 26 が二つに分かれて、もう少し丁寧になると。

（事務局：こども未来課企画管理係長）
そのあたりはぜひご議論をいただいて、具体的にどうした方がいいのか。この辺はいくら変えても別に構いませんので。できれば、経年変化を取れるような形で持っていきたいというのが今回の設問の趣旨でございます。
当然、問 27 に自由記載欄もありますが、それぞれどんなところも、先ほど質という話も出ましたけれども、質をないがしろにしているつもりはないのですが、そういったお声も拾い上げられるようであれば、より拾いやすいスタイルでいきたいと思います。その辺はぜひご議論いただきたいと思います。

（森会長）
これについてどうでしょうか。最低限「6、その他」というのがなければ駄目ですね。その時々によって苦しいときもあったし、切ないときもあったけれども、過ぎてみると楽しかったとか、さまざまな答えが当然あるので「その他」になるでしょう。

（阿部委員）
私も同じ疑問を持ちました。例えばこのアンケートで「どちらかといえば楽しくない」といったときに、新潟市はどのような援助をしてくれるのか。アンケートに答える側に回ったときに、この設問の中の「全然楽しくない」「どちらかといえば楽しくない」と丸を付けたときに、新潟市はこの設問に対してどのような援助をしてくれるのかというのは疑問というか、どうなのかなと思いました。
子育てが楽しいことは、結果的に楽しいということはあるのですけれども、その過程というのは、私も働きながらの 3 人の子育ては不安の方が先でしたので、どちらかといえば「子育てに対して何か不安はありませんか」とか、個人的にはそちらの方を聞いてほしいと思いました。

（平澤委員）
今の問 26 については、私も最初に申し上げたいのは、1 から 5 だけではなくて 6 番の「その他」が必要だという先ほど言われた点です。
今の方のご意見を聞いておりまして、私も思っておりましたが、全て「楽しい」という尺度で測っておりますけれども、楽しいどころか、「どちらかといえば楽しい」とかそんなものではなくて、むしろ苦痛だ、大変だという判断や思いを持っておられる方もいるかと

思うので、そういった声もつぶさに聞ければ、今後の事業計画に役立つと思いますから、「楽しい」という他に「苦痛」という言葉が適当かどうかはあれですが、せめて「大変である」とか、そういうこともうかがえるような中身にした方がいいのではないですか。

ですから、「どちらかといえば」なんていう言い方はちょっとあいまいですから、楽しいということと、あとは楽しさよりも大変さの方が大きいんだという、それが分かるような表現の方がよりよろしいかと思います。

でも、いずれにせよ「その他」というところで、どれでもないけれども、私の思いはこうだというものを表記できる欄は必要かと思います。以上でございます。

（前田委員）

前田と申します。今、平澤委員のおっしゃったことは私もそう思います。子育てイコール楽しいと感じないと悪いのかなという、何かそこに追い詰められていく人もいるのではないかと思うのですね。

今、言われたように、子育てというのはその場その場で、本当に寝顔を見たときに「ああ、かわいいな」と思うときと、何も言うことを聞かなくて「もう、どうしたいのよ」ともう怒鳴りたくなるようなときも必ずあるのですね。それはみんなが抱えていることであって、決して子育てを楽しいと感じなければ悪いことだと感じさせるような内容であってはもっと追い詰めてしまうのではないかと、私も今、そう感じましたので、意見として言わせていただきました。

（山賀委員）

PTA の山賀です。この設問がどうしても一本の評価尺度になっているので、楽しさになっているので、今、これだけのたくさんのご意見が出るのかなと思います。楽しさや不安というのはそれぞれ共存していることがきっとあると思うのです。その中で楽しさが、例えば上の設問 25 のように、一つの、5 段階でいえば 3 とか 4 とか、あるいは不安がそれ以上に勝って 4 ぐらいあるとか、何かそういうような項目立てをすることによって、個別に評価をすることも一つ、方法としてあると思っています。

だから、決して選択をする問題ではないのではないか。楽しさが多いとか、不安が少ないとか、そういうことではないと感じましたので、検討いただければと思います。

（森会長）

ありがとうございました。どうぞ。

（山本香織委員）

山本です。遅くなりまして、すみませんでした。

私もこのニーズ調査をやってみて、子どもが寝た後で、12 時過ぎて、自分も眠たい中で

やったのですけれども、ちょっとその日に子どもといざこざがあって、26 の問いに来たときにうっと詰まってしまって、何かちょっとこの問題はつらいな、どう答えていいのかなと実際思って、皆さんのご意見をお聞きして、そういう設問だったら答えられたかなと感じました。

あとは、新潟市に子育てを楽しくしてほしいとはあまり思っていなくて、どちらかというと、楽しくしてほしいというよりは、自分の負担を軽くしてもらえるようなことを望んでいるので、例えばどのぐらい負担を感じているかとか、そういう方を行政にはお願いしたいです。楽しいか、楽しくないかをお願いするのは家族でいいかなと、答えながら感じました。以上です。

（田巻委員）

要は表記といいますか、言葉遣いといいますか、文言といいますか、聞き方という。それを今の経験者、今、真っ盛りの方々の意見を最大限にということで、今、表現を工夫していただくことが一番なのではないかという気がするのですけれども、いかがでしょうかね。

（森会長）

それはどういう表記だと答えられそうでしたか。実際やっていて「うーん」と詰まったという。

（山本香織委員）

そうですね。先ほどおっしゃっていたように、やはり 5 段階評価で、楽しいというところもあってもいいと思うのですけれども、いろいろな気持ちがあるので、一つを答えるというのもちょっと難しいかなと。

「どちらかといえば」というのが入ると「どちらかといえば」に丸が付いてしまうというか。「とても楽しい」というふうにはやはり言い切れないところがあります。ちょっと難しいので、さっきおっしゃったように、1～5 段階まであって、楽しい、不安に感じる、負担に感じる、大変であるとか、そういう。

（森会長）

そういう尺度があるといいですか。

（山本香織委員）

そうですね。うまく言えなくて、すみません。

（鈴木委員）

私はこの問 25 と問 26 について、先ほど説明がありましたように、国のものと一緒にやれるということで、全国的な中で新潟市がどの辺に置かれているのかが、言ってみれば、このニーズ調査をした時点で評価できる、確認できるということですよね。それは一つ、いいと思うのです。

それについて、実は問 26 というのは、国で求めているような満足度に関する評価の裏返しが主観的な形でもう一度聞いてみましょうと。それを今度、国はこの後、どうなるか分からないにしても、新潟市が類似の事業をこれからずっと展開していったときに、25 年度に比べて 27 年度は、あるいは 30 年度はさらにこの満足度が高まってきたかということを裏付けるような、比較できるようなデータをこの際、収集しておいてもいいのではないかということで考えていきますと、それは非常に経時的に、これから日本一の子育ての都市を実現するということを確認する作業もやはり必要なのですね。

そこから先の話なのですけれども、問 25 と裏返しの話をしたということ、問 26 はそういう性質の設問ではないかと申し上げましたけれども、満足度という肯定的な形で聞きながら、別に満足度が低いということは不満とか、子育ての環境が私にとってはあまりいいとは思っていないという表明なわけですよね。

それを同一線上で、私の感覚で言えば、真ん中あたりが普通だとすると、いい方、悪い方ということで付けられるから、それを 10cm や 1m の中で 97cm だとか、8mm だとか、3mm だとかと聞くのはあまりにも細か過ぎるから、5 段階で聞いていって、それなら答えられるというお話でしたね。

だから、そういう意味で考えていって、問 26 は設問の趣旨はそういうことなのですけれども、今までのおっしゃったように、確かに答えにくいですよね。それは多分、いろいろな委員のご意見がありましたように、同一線上で、先ほどのお話は、例えば真ん中に 0 があって、子育てが楽しくない方と、楽しくないというのはより楽しくない、あるいは苦痛だ、不安だという、より楽しくない方、マイナスの分もありますよね。それは同じ線上で 0 から設問を作っているのではないかというご意見だったと思うのです。

だから、それを同じ線上に考えていったときに、問 25 と同じように、主観的な子育てに関する気持ちを 5 段階で聞いていくことにして、そのときに真ん中をどちらでもない、3 を 0 だとして、楽しくない方、それから楽しい方ということなのですけれども、それでも山本委員さんがおっしゃったように、答えづらいと。そのときに私が思ったのは「とても楽しいと思うことが多い」とか、あるいは「いつも楽しい」とか「時々楽しい」とか「どちらでもない」とか「時々苦しい」という 5 段階にしていくと、0 からスタートしたということではなくて、楽しいことも楽しくないこともあるということで、同一線上に量的に子育てに関する自分の主観的な気持ちが答えやすくなるような設問になりませんでしょうか。

そういう意味で、あとは言葉の整理として「いつも楽しいと思う」とか「時々楽しいと思う」とか「どちらとも言えない」とか「時々楽しくない」という言い方の方が私はいいような気がするのですけれども、それを「時々楽しくない」という聞き方はあまり良くな

いから「時々負担に感じる」、あるいは「負担に感じる」ということで、一番端っこのマイナスの方という形で整理されるといかがでございますでしょうか。

ですから、最初にご意見があったように「その他」というのは、この線の中には入ってこないと思います。「どちらでもない」という量的な、例えば 10cm なら 10cm の感覚の中で楽しいか楽しくないか、時々なのか、いつも楽しいのかということですので。

それと、あともう一つは、私の意見としては、ほかにも 2 段階だとか、さらにここで独自の設問を細かくというお話がございましたけれども、この問 25 までが多分、コアになる設問項目で、さらにそこから先、せっかくここまで答えてくれた回答者に、またもう一度、全部に戻るような形で細かく聞いていくというのはちょっとくどいというか、しつこいというか、今度は回答そのものに負担を強いるような形になります。もともと国のガイドラインに沿って示されたものの中で、新潟市の独自の項目として入れられるのはやはり一つか二つぐらいなのではないかと考えていきますと、こういう形で将来の、時間がたったときとこのとき、今の時点とでどうだったかを比較できるということで、経時比較と同時比較が両方できるようなものを、一つは国の方でも同時比較のポイントを用意してくれていますので。

ということで、長くなりましたけれども、問 26 は楽しさの量を聞くよりも、楽しいと感じるときの時間が多いのか少ないのかという形で、そうすると子育て中のお母さん方の気持ちがどういうふうになっているのか聞くことができます。

多分、その辺は小池先生がいろいろな調査をされているデータの中でもいっぱい出てくるのですけれども、聞き方として、マイナスのニュアンスで言葉をかけて「不安ですか」「負担ですか」という聞き方も失礼なのですね。最初から子育ては不安で、苦痛で、孤独で、虐待につながるリスクを抱えているという前提で聞く聞き方は、ちょっと私はまずいと思うのですけれども、そういう意味で、だけれども、そんなに楽しいばかりと決めつけられるようなことではないと。

それから、山本委員さんがおっしゃったように、楽しさは家族でまかなうからいい。工夫するから、負担を取り除くことを求めたいというご意見は、私は非常になるほどと思ってお聞きしていました。ということで、少し文言整理をしていただいて、問 25 と問 26 の関係で整理されたらいかがでしょうか。

（森会長）

分かりました。これは文言整理をするとなくなるのです。26 番は要らなくなるのです。実は「どのように感じていますか」という感じる感の回答が 1～5 というのは、感じを答えていません。だから、なくなるのです。負担感や不安感を感じていると、それに対して、新潟市としての支援策が基本的に機能しているか、機能していないかというと、問 25 に戻るので、なくなるのです。

（鈴木委員）
なくなるというのは、問 26 が要らないという意味ですか。

（森会長）
そうなのです。なくなるのです。

（鈴木委員）
問 25 と問 26 は、多分、相関するのですね。相関というか、関係が出てくると思います。満足度の高い人は楽しいと思うと感じることが多いというふうにクロス集計すると出てくると思います。だから、なくなることにはならないと私は思うのですけれども、ただ「楽しい」とか「楽しくない」というだけではなくて、さっき申し上げましたように「同一線上の中で、子育てについて回答者が感じる気持ちを数直線上に並べたとしたら、あなたの気持ちはどの辺に位置しますか」ということを主観的に聞いていくような設問の仕方、それは問 25 も同じなのでしょうけれども、ということだと思います。
私としては、先ほど肯定的な設問の仕方がいいのではないかと申し上げたのは、子育てはやはり楽しいことと誇りを持って取り組んでいると回答者自身がこの設問に答えることによって、そういう機会にもなればという期待も含めまして、肯定的な捉え方の中で、ただ一方で 0 からではなくて、0 を真ん中に置いて、マイナスの方も来る。両方の端っこは楽しいと楽しくないと思うときがそれぞれあるけれども、今、私の気持ちとしてはどの辺かということを、自分自身で子育てを振り返る機会にも、あるいはこの設問はなるかもしれません。あるいはもっと積極的に子育てを応援するようなきっかけになっていただければ、何よりなアンケート調査だと私は思っています。以上でございます。

（山賀委員）
PTA の山賀です。今のお話を聞いていて、再度、発言したいのは、この問 25 と問 26 はそもそも順番が逆なのかなと実は感じていました。先ほど鈴木先生がおっしゃったように、個人の主観がまずあって、その上で問 25 の設問に展開していくのが自然の流れなのではないかと思っています。そして、問 27 が独立した設問になっているのですが、問 25 に当たる内容について具体的にどういう点が満足しているのか、どういう点が不満なのかというものを、具体的に、先ほど言ったように主観的なものの根拠として「こういうものを感じています」とここで列挙していただいた方が、満足度や市への要望について、より一貫性があるというのか、この項目としての存在意義があるように感じていました。
ですので、結論から言うと、確かに問 26 はもしかしたら省けるのかもしれないのですけれども、基本的には問 26 の内容に当たる部分は問 27 で具体的にそれぞれの感じていることを付け加えていただく。まず総括的には問 25 のところで満足度の評価を取りあえずやってもらうというのも一つの方法かと感じました。以上です。

（森会長）
ありがとうございました。はい、お願いします。

（三村委員）
ちょっと私も問 25 と問 26 を見たときに、例えば「満足度をお聞かせください」というところで、満足が低いのが 1、高いのが 5 になっていまして、問 26 を見ると、楽しいという、例えばここでいう満足度が高いというのが 1 になっていて、全然楽しくないというのが 5 になっているということで、設問は逆な気がします。

ちょっと参考までにといいますか、考えたのですけれども、問 25 の設問の仕方は、実は私たちも結構使うのですね。例えば「どれくらい痛いですか」という話を聞くのですけれども、「0 が全然痛くなくて、10 がもう耐えられないぐらい痛い。今、どこですか。指を指してください」という、VAS という指を指すところがあるのですけれども、それで見るのですね。例えば今出てきたキーワードの中で「楽しさ」「不安」「負担」というのがあるのですけれども、例えばこれは「幸せ感」というのを入れてもいいと思います。例えば問 25 には満足度が 1～5 ありまして、楽しさを「楽しくない」を 1 にして「すごく楽しい」のが 5、不安は「すごく不安がある」を 1 にして「全然ない」を 5 にするというふうに振り分けているのですね。それを付けてもらうと、例えばこの方はすごく子育てに不安や負担はあるのだけれども、楽しいとか、不安であるとか、そういう心の内が三次元的に見えてくるのですね。この方はすごい不安もないし、負担もないし、すごくのびのびとやっていそうなのだけれども実は子育てが楽しくないという、こういう XYZ の表の中でここにいるというのが出てくると思うので、新潟市の方はそこが知りたいのかなと思うのです。不安はあるのだけれども楽しいとか、こうだけれども幸せだとか、そこが先ほど鈴木委員が言われたように、ある一つの尺度で測れないところがありますので、こうなのだけれどもこうだという。「新潟市はすごく雪が降るけれども楽しい」みたいな、そういうところが見えてくると、まちづくりや、今後、この子育てを発展していくためにも、この問 25 は国のものとして、問 26 でこう作っていけば、幸せ度か何かが見られるのではないかという、VAS という手法は有効なのではないかと思いました。

（森会長）
ありがとうございました。

（田巻委員）
例えば夜中にずっと頑張ってやっていて、この設問を見たときに、うっとなってもらうと困るわけですよね。だけど、そういう生の声を聞き取りたいわけでしょう。だから、今、三村先生がおっしゃったような、そういう不安も含めての項目にして番号であれば、同じ

ようなシチュエーションになったときに、つらさというか、すっと丸がつけやすく実際になりそうでしょうか。3 人の方にそれをうかがいたいと思います。

（山本香織委員）

正直、問 26 をやって、丸を付けるのに悩み、うっと考えて、これは一番最後の問題なので、終わった後の後味はあまり良くなかったです。

だから、先ほどおっしゃったように、いろいろな尺度で丸を付けていけば、多分、自分の今の気持ちはここにあったのだなというふうに、ちょっとすっきりして終われるのかなというのは、話を聞いていて、私は思いました。

20 分ちょっとかかって、最後がこの感じだと、やはり何となく楽しい方に丸を付けなければいけないのかなと感じ、もし 4 番、5 番に丸が付いたら、何かやっぱり私はいけないお母さんだったのかなと、ちょっと眠れない夜になってしまうかなと個人的に感じています。

（森会長）

どうですか。実際に付ける立場の方が、付けて自分の気持ちを出せるか。

（山田委員）

私はこういう設問があると、取りあえず 2 の「どちらかといえば楽しい」に絶対付けます。健診のときでもこういう問題がありますよね。こういうので例えば 4 や 5 を付けたとしたら、良くないママと思われる、駄目ママだと思われてしまうと思うので、取りあえず 2 だろうと思って付けているのですけれども。

先ほどのように「楽しい」「負担感を感じる」という個別で項目があれば、楽しいが 4 だとしたら、負担や不安を感じるというのも同じくらいの量があるので、付けやすいですね。そういう気持ちがあるのだけれども、問 26 の設問の答えだと当てはまらないので、ちょっと困ってしまうというのがあると思います。細かく分けてもらえれば、さらさらと書けると思います。後味の問題としてどうなのかはあるのですけれども、書きやすくは、答えやすくはなると思います。

（山本良子委員）

もうお二方が私の気持ちを全て代弁してくださったので、特にないのですけれども、やはり子どもの健診のときなどは、自分の名前を書いて、そのときの気持ちを答えるので、保健師さんが「何がそんなに大変なの？」「どこが困ってる？」とすごく聞いてくださるので、やはりそのときにすごく罪悪感を感じるのですけれども、このアンケート調査に関しては無記名ですし、本当に自分の気持ちに正直に答えられるかなと思います。ぜひそういう設問にしていただきたいと思います。

（椎谷委員）

この問 26 に関しては、子育て支援をしている者としては非常に興味深いといいますか、ぜひ採っていただきたいと思っています。

ここに参考資料として書かれているように、取り組みを評価する質問として妥当かどうかというところですね。そうしますと、多分、二つの考え方になると思うのです。取り組みに関してどのように感じているのかということを、この 18 ページの上にありますが、「満足度や市への要望についてうかがいます」というところに入っているわけですよね。もしかしてこの問 26 というのは単独ではないのかなと思うのです。

というのは、問 25 と問 27 を上に持っていって、この問 26、「最後にあなた自身についてうかがいます」という書き方の方が、自分自身について子どもに対してという、今、言われたような感覚で書けるのではないかと思っていまして、ここの「要望などについてうかがいます」という中に入らなくてはいけないのかどうなのかと思うことが一つです。

それから、新潟市さんで採っている子育てアンケートは非常にいい内容です。例えばこういった質問もありますし、「何が楽しくないですか」という質問とか、もっともっとさらに踏み込んだ、書きやすいような、答えやすいような、そしてさらに支援者としてはこういうふうにしていった方がいいだろうなという内容のアンケートは、今年はもう採らないのでしょうか。このニーズ調査はあれと全く違うものなのですね。

こういった質問が入るとなると「どちらかといえば楽しくない」、その次に「どういうときに楽しくないですか」とかもっと踏み込んだもので、お母さんたちにとってそんなに負担がないものがアンケートになってくると思うのですね。

これ自体がここに入るのがいいのかどうなのかということもちょっと疑問でもあるのですが、入れるとしたら最後に「あなた自身について」という書き方でもいいのではないかと思います。

（森会長）

ありがとうございました。基本的に問 25 と問 27 は一体的なものなのですね。環境や支援に対する満足度、それに対する「このように改めてほしい」というものと、ご自身の子育てについての主観の感想を聞くという。それが例えば問 25 の前に入る場合もあるし、一番後ろに行く場合もあるけれども、ちょっと別なものだと。

あるいは一緒になって考えるとすると「楽しさ」「不安感」「負担感」と聞いていって、「それに対する支援は満足していますか、満足していませんか」「どう改めてほしいですか」という聞き方になることもあります。だから、問 26 がこのページの一番上に行くか、一番下へ行くかというご指摘だと思っています。ありがとうございました。よろしいでしょうか。

（事務局：こども未来課企画管理係長）

はい、ありがとうございました。実際、回答をするときの後味の悪さという話もありま

したので、最後に市に文句を言って終わった方が少し救われるのかなと思って、椎谷委員の話もありましたけれども、問 26 を前に持っていって、あとは楽しさの量や時間、不安感、負担感、三つぐらいを設けて、さらに「市に対しての満足度はどうですか」「地域の満足度はどうですか」。では「ここは満足していませんので、この辺の改善をよろしく」というふうに終わった方が終わりやすいかなと皆さんの意見を聞きながら思いました。

先ほど椎谷委員からも意見をいただきましたが、市民アンケートでも実は「子育てはどのように感じていますか」と聞いて「楽しくない」という人は「どういったところが楽しくないですか」と聞いていまして、今年ももちろん継続してやるつもりでおりますので、またそこで、回答者は違いますけれども、ニーズとして出てくると思っています。以上です。どうもありがとうございました。

（森会長）

ありがとうございました。それでは、時間もありますので、この 1、2、3 の論点以外で、就学前児童の調査票全体について「ここはこうすべきだ」という、実際やってきた方もおられると思うのですが、「ここはこうだった」というご意見をお聞かせ願いたいと思います。

（椎谷委員）

すみません。先ほど言い忘れたのですけれども、11 ページの「子育て支援センターなどの利用状況について」というところで、「支援センターなど」のというところに入るのかどうかですが、新潟市には子育て支援センターではないひろばが古町にもあります。

支援センターに限るのか、またはひろばも入るのかというところで、もし入るのであれば「地域支援センター・ひろば」というものにするのかどうか。ただ、これは国のやり方なので、それはできないということなのか。どちらなのか教えていただきたいと思います。

（森会長）

では、お願いいたします。

（事務局：こども未来課企画管理係長）

はい。恐らく国の調査票は「地域子育て支援拠点事業、集いのひろば、子育て支援センター等と呼ばれています」と書いてあって、ちょっと分かりづらかったので、新潟市で一般的に支援センターと書いております。なかなか古町や東区プラザの方のひろばも入ると思っていますので、ちょっと表現は工夫したいと思います。

それから、併せてなのですけれども、2 番「その他 1 と類似しているとお考えのサービス」というのは、もっと細かく書きたかったのですが、例えば地域の方がやっている居場所、公民館でやっているサロン、社会福祉協議会が補助しているサロンなどいろいろあるのですが、これを細かく書き始めると収拾がつかなくなると思ったので、回答者に委ねてしま

いました。申し訳ありません。以上のような状況です。修正はしたいと思います。

（森会長）
今のご指摘はよろしいでしょうか。あと、この調査票全体について、これはぜひ話しておきたいという点、お願いいたします。

（山賀委員）
PTA の山賀です。回答の目安が大体 20 分となっているのですが、これはどれぐらいの数値で 20 分と判断したのか。例えば 1 人、実際にやってみて 20 分ぐらいだったのか。私が見る限り、20 分で終わるのかなというのが漠然としたものです。そうすると、中には「20 分程度で終わると思ってやってみたら 30 分もかかりました」というのが一つ、不満にならなければいいけれどもと、ちょっと印象を持ったので、その辺もこの目安の 20 分というのはどういう根拠だったのかをお聞かせいただければと思います。

（事務局：こども未来課企画管理係長）
山本香織委員がやっていただいて 21 分ということだったので、それは別に根拠ではないのですけれども、当然、私たちもやりました。全く関係のない課の職員もやって、そのパートナーの方もやって、われわれ職員が個人的な知り合いの市民の方にやってもらって、大体、平均がこのぐらいだったのですね。なので、15～25 分でもいいのですけれども。職員は 10 分で終わる人もいましたが、それは制度をいっぱいよく知っているので、それはちょっと除外して考えて、一般的な市民の方の平均が大体このぐらいだったということで、こんなふうに書いています。表現は 15～25 分でもいいとは思っているのですが、いかがいたしましょうか。

（森会長）
はい、どうぞ。

（椎谷委員）
先ほどこれも言い忘れたのですが、私はこの 7 番の項目はなくてもいいと思っていたのです。これを見てやめる方がいるのではないかと。時間というのは個人によりますし、書かなくていい項目もあるので、全部書かなくてはいけない方と書かなくていい項目がある方がいて、さらに 5 分、10 分ぐらいで終わる方もいるので、この目安が逆に答えなくなるかと思います。

（山田委員）
私は逆なのですけれども、本当に 20 分でできて感動した方だったので、「わあ、すごい。

本当に 20 分だ。」と思いました。私も子どもが寝てから 1 人でやったのですけれども、20 分だったことにすごく感動したので、目安としてはいいのかなと思ったのですけれども、どうなのですかね。

（田巻委員）
要は、あった方が良さそうなのか、やめた方が良さそうなのかということだと思うのです。別に多数決をいただくほどのことではないと思うのですけれども、そういうことですよね。

（鈴木委員）
私の見落としなのかもしれませんが、先ほどの別紙の「施設サービス一覧」をどこかに言及というか、「回答に当たって、現在、利用しているサービスか何かの説明は別紙 4 でありますので、参考にしてください」という言及がなくて、アンケート調査用紙に同封していくということだとすれば、「ご記入にあたってのお願い」のどこかに 1 行、「これもどうぞ参考にしてください」ということが何か必要なのではないかとふと思いました。
あともう一つは、設問の各所で任意と必須になっていますね。その任意と必須の説明も、このところで、例えば「必須のところは全員がご回答ください」とか簡単な、あまり長くなってもまた嫌なのでしょうけれども、一言、注を付けていただくとありがたいと思っていました。
それから、今の 20 分程度ですけれども、先ほど表紙を見て開くか、開かないかという話がありましたけれども、ぱーっと見ていって、表紙はみんな開くと思いますよ。2 ページを見たときに「何だかいっぱいだな」と、これはこんなにいっぱい時間を取られるのだろうかということで脱落者を出さないために「20 分程度で終わるのであれば取り組もうか」ということとつながる意味では、残しておいてもいい、記入に当たってのお願いの項目かと思っていました。確かにぱーっと見ると量が多くて嫌になってしまう感じになりますものね。そういうことを答えていけば「案外、簡単なんですよ」という安心感を最初に持ってもらうためにはあってもいいような気がします。

（森会長）
ありがとうございました。必須と任意というのは、答えなければならない、答えなくてもよいという中身ですか。それとも、違う中身ですか。

（事務局：こども未来課企画管理係長）
すみません。私の説明が漏れていました。この場の委員の方に分かりやすくするために、国が必須ということで求めているもの、任意に関しては国の調査票で黒字と呼んでいますけれども、削除してもいいものということで分かりやすく。独自というのは新潟市が独自

に追加している設問ということで、今日の会議のために入れたもので、実際、発送するときは全部、削除します。

（鈴木委員）
分かりました。

（こども未来課企画管理係長）
それから別紙につきましては、回答が必要に、この別紙が必要になるであろう 7 ページの問 12 などに「なお、これらの施設・サービスの利用には、一定の利用者負担が発生します。（別紙「施設・サービス一覧」参照）」と書いてあるのですが、よろしいでしょうか。

（鈴木委員）
分かりました。

（森会長）
最初ではなくて、この必要になるところで入れたと。「記入にあたってのお願い」が増えないように努力したということですね。

（椎谷委員）
すみません。もう一つ言い忘れました。12 ページの「地域子育て支援センターの利用は無料」と書いてあるのですが、育ちの森だけは有料なのですね。ここをどうするか、考えていただきたいと思います。

（事務局：こども未来課企画管理係長）
了解いたしました。

（森会長）
有料のところもある。別紙の方も変わってくるのですね。

（事務局：こども未来課企画管理係長）
別紙の方も修正が必要だと思います。よろしければ、椎谷委員、あとで相談させていただければと思います。

（中島委員）
中島です。大したことではないのかもしれませんが、アンケートを答えやすくするという中で、例えば 4 ページの中間のところに米印の注釈というか、説明書きが四つ付いてい

ると思います。こういうふうにぱーっとまとまって小さい字があると、ここをぱっと見ないというか、そういうパターンも出てくると思うのですね。注釈が一つぐらいならいいのですけれども、結構まとめて四つとかいうところが多いのですよ。

それで、例えばこの注釈の上と下の段をもうちょっと段を開けるとか、例えば 4 ページ問 8（2）の中段の米印が四つある下に、数字で答える四角がありますよね。その下へ持ってくるとか、とにかく字がぱーっと設問と一緒に注釈があるのが、字の固まりというのがやはり答えにくくする要素というか、そういうところがあると思うのです。大事なことでもあるので、上下の段を開けるとか、四角の下に移すとか、ちょっとそこを工夫していただければいいと思いました。

（森会長）

今の指摘は全体に及んで、全部を入れ替えることになりますが。つまり回答を上に上げて、米印は下に下げる。米印を読まなくても回答できる人は回答してもらうということですね。

（中島委員）

大事な説明もありますよね。だから、説明を見てもらうのであれば、米印がくっついているので。上がくっついていますよね。「数字でご記入ください」のすぐ次に時間の注釈が付いているので、もう 1 行、そこを開けて見やすくするとか、そこのところを、気持ちだとは思うのですけれども。

（森会長）

ひっくり返すことはないのですね。

（中島委員）

ひっくり返すのは一つの例として私は言ったのですけれども、それが難しいのであれば、くっつかないで、設問と間を 1 行空けるという形でも少し違うのではないかと思います。

（森会長）

それは可能ですよね。

（事務局：こども未来課企画管理係長）

行間については可能です。

（森会長）

行間については可能だそうです。ひっくり返すと全部がひっくり返すことになるので。

大事な米印があったり、注釈があったり、さまざまですよね。

（事務局：こども未来課企画管理係長）
確かに回答者によって当てはまる重要度が違うというか、シミュレーションの中では、この太ゴシックのところでほとんどの人が回答できたのですが、やはりこういうこともあるという指摘を得て増えていきました。行間については全体的に、レイアウトも工夫したいと思います。

（森会長）
ありがとうございました。では、時間もありますので、小学生の保護者用のニーズ調査はどうでしょうか。小学生の保護者用のニーズ調査は基本的には同じ作りになっているかと思いますが。

（山本香織委員）
すみません。両方とも拝見して、こういう蛍光灯の下ではなくて、オレンジ色の暗い電気のところでやったので、字が小さくて、とても見づらい、疲れるなと感じました。あと、余白も少ないですし、中島委員さんがおっしゃったように、字がくっついているので、読む気がだんだんうせてくるのですね。
「24 時間制で答えてください」というのは、最初の 1 ページ目にも書いてありましたし、注釈にもしつこいぐらいに登場するので「1 回でいいよ」みたいな感じにだんだん思ってくるので、そういうところで減らせるのではないかと感じました。以上です。

（森会長）
その「24 時間制でお答えください」というのは、各章に入っていますね。最初の 1 ページに書いてあるとおりなので、そう何カ所も要らないのではないかという指摘ですが。

（事務局：こども未来課企画管理係長）
確かにシミュレーションの中では同じことが言われました。国の調査票も同じことが繰り返し出てくるので、だんだん嫌になってくるという意見はありました。
ただ、正確な表記を求めたいということで書いていたのですが、皆さま、いかがでしょうか。確かに「ご記入にあたってのお願い」に一つ書いておきましたので、幾つかのアンケートに慣れているような人は十分かと思うのですが、いかがなものでしょうか。

（小池委員）
やはり字数を減らして見やすくするというのは、アンケートを答えていただくときには非常に大切だと思います。例えば私たちがこういうデータを取るときに「午後 6 時」と書

いてきたら、自分たちで「18」と入力し直すという作業が一つ増えますけれども、最初のところに1回書いてあれば、多くの方たちは多分、24時間制で書いてくれて、一応、時々そういう方が出てくるという形になると思いますので、最初のところに書いていただくことで字数を減らして、見やすくするという方で進めてはいかかでしょうか。

（森会長）
アンケートのプロが言っております。

（事務局：こども未来課企画管理係長）
では、24時間表記の部分はそのようにさせていただいて、文字の大きさ、行間、私も特に1ページをぱっと開くと、字ばかりで、ここで多分、挫折する人が出てくると思うので、行間を空けるなり、そこでページ数が増えても致し方ない部分もあると思いますので、その辺はちょっとまたレイアウト等を工夫しながらやっていきたいと思います。

（森会長）
はい、では、そのようにお願いいたします。

（山本良子委員）
すみません。特に米印がすごく多くて見づらいという印象を持ったのですけれども、ところどころで、例えば「放課後児童クラブの内容等については資料 4 の別紙の方をご覧ください」と書いてあるところもあれば、ひまわりクラブの利用にはいくらかかるとか、そういったところが混在しているので、全部「別紙をご覧ください」という形で統一してはいかがでしょうか。

（事務局：こども未来課企画管理係長）
今ほどのご指摘は、例えば小学生でいくと、放課後児童クラブですので 7 ページに「公設のひまわりクラブの利用には」うんぬんと米印に書いてありますが、別紙を見ていただければ分かるようにしたいと思います。これも先ほど言ったシミュレーションの中では、使っている人たち、理解している人たちはもうこんなのは見なくても分かる話で、必要がある人だけがこの別紙を見ることになるだろうという形でご意見をいただいていますので、今ほどのご意見のように修正したいと思います。

（森会長）
はい。それではできるだけ文字数を減らすということになりますので、よろしくお願いいたします。今のことは基本的に、小学生の調査にも同じことが当てはまるということになりますので、よろしくお願いいたします。

その他、小学生の調査、あるいは就学前の児童の調査票のどちらを見てもよろしいですが、ご指摘等がございましたらよろしくお願いします。

それでは、そろそろ時間になりますので、最後、残ったところがありましたら、最後は会長預かりとさせていただいてもよろしいでしょうか。また事務局にかけさせていただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

（３）「子ども・子育て新制度」に対する意見・質問

（森会長）

では、次第（3）「『子ども・子育て新制度』に対する意見・質問書について」です。資料6として配布されておりますけれども、第１回の会議後、丸山委員から意見・質問書が届いておりますので、回答したいと思っております。

初めに１「市の政策について」の中で「当会議において『質の高い幼児期の学校教育の提供』という観点からは十分な議論がなされていない」とのご意見があります。今後、開催されるこの会議、および特に部会において議論することになると思いますので、その際には活発にご意見をいただきたいと思っております。

事務局から付け加えることがありますでしょうか。また、残りの意見や質問については、事務局から回答をお願いしたいと思いますので、よろしくお願いします。

（事務局：こども未来課長）

こども未来課の堀内でございます。私の方から回答をさせていただきます。

丸山委員からいただいている意見・質問書でございます。ご覧ください。

まず１「市の政策について」というところの補足でございます。子ども・子育て支援法において、良質かつ適切な教育、ここでいう教育というのは幼保連携型認定こども園、それから幼稚園での教育ということになりますが、その提供体制を確保することは市町村の責務の一つとされております。「市町村がそのための計画を定めるに当たっては、この会議での意見を聞くこと」と規定されております。その点についてはぜひご意見をいただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

また、新潟市の教育政策については、教育委員会の方からも回答させていただきます。

（事務局：教育総務課政策担当課長）

教育委員会の教育総務課企画室の上所でございます。私の方から説明させていただきます。座って説明させていただきます。

新潟市では、新潟市教育ビジョンを策定いたしまして、教育の方向と在り方を明確にし、具体的な事業計画を示して、次代の新潟市を担う人づくりに取り組んできています。幼児教育の充実につきましても、教育ビジョンに位置付けて、幼・保・小連携や、幼稚園教諭

および保育士の合同研修などを行っています。

現行の教育ビジョンは、現在の後期実施計画ということで、平成 22 年から 26 年の計画を実施しております。平成 26 年度、来年度をもって終了するということで、次期教育ビジョンの策定ということで、教育委員会において、現在、検討しています。当子ども・子育て会議でいただきますご意見につきましても、次期教育ビジョンに反映させていきたいと考えているところでございます。

（事務局：こども未来課長）

それでは、残りのご意見・ご質問についてでございます。まず 2 番目の「運営・給付について」というところです。施設型給付の額は国が定めるものでございます。国は来年度の初めに骨格を示すと言っておりますけれども、それまでは国の子ども・子育て会議における審議内容を注視していきたいと思っております。

ちなみに政令市の児童福祉主幹課長会議などからは、国へは早期の情報提供を要望してございます。実質の上乗せ徴収の部分につきましては、国の徴収理由の開示など、一定の要件の下で認める方針とのことでございますけれども、こちらも今後の国の審議内容を確認していきたいと思っております。

新制度の実施後の本市の私立幼稚園に対する補助の内容につきましては、施設型給付の内容を踏まえて、今後、検討をしていきたいと考えております。新制度の実施は園の特色ある教育の実施や、地域の子育て支援を妨げるものではないと考えております。よろしくお願いします。

それから 3 番目の「新潟市子ども・子育て会議委員構成について」というところでございます。公募委員の方々につきましては、その全てがワーキングマザーということではございません。個人情報ですので、事務局の方から詳しくは申し上げませんけれども、選定の際には幅広くご意見がうかがえるようにということで、それぞれの立場のバランスも考慮しておりますので、ご理解いただきたいと思います。

それから 4 番「新制度移行後の所管について」でございます。本市における認定こども園、私立幼稚園、保育園の平成 27 年度以降の所管部署については、現在、検討中でございます。

それから、私立幼稚園の設置認可等に関する権限と、幼保連携型以外の認定こども園の認可権限の本市への一元化については、県との協議が始まったところでございます。また、施設型給付を受けないこととした幼稚園につきましても、財政措置の充実を努めることが国においても議論されておりますので、よろしくお願いします。

それから、5 番目の子ども・子育て支援事業に関するニーズ調査票については、先ほど議論いただいた案に溶け込ませていただきましたので、よろしくお願いいたします。事務局からは以上でございます。

（森会長）
はい、ありがとうございました。丸山委員、この点については、さらにご質問がありましたら、また事務局へ問い合わせていただくということでよろしいでしょうか。

（丸山委員）
分かりました。

（森会長）
ありがとうございます。では、最後に次第3「その他」となっていますが、事務局から何かございますでしょうか。

（事務局：こども未来課企画管理係長）
はい。お願いいたします。ニーズ調査そのものなのですけれども、皆さんに今日いただいた意見を踏まえまして、また修正し、より回答しやすいものにしていきたいと思います。なるべくスケジュールどおりに進めたいと思っています。
ただ、今、実は国の方にも調査票の案を示して、この表現で間違いないか、この国の趣旨と合っているかどうかというのを、一部、確認中のところがございますので、その回答が来ましたら、ちょっと一部、文言が修正になるかもしれませんが、分かりやすい調査票を心掛けていきたいと思います。
それから2点目、次回会議のご案内です。3回目の本体会議につきましては、当初、12月ぐらいにできればと考えていたのですが、このニーズ調査の単純集計がありますので、年末年始を挟みますので、恐らく1月になると思いますが、ちょっと作業のスケジュール、進行状況を見ながら、またなるべく早めに日程調整をさせていただきたいと思いますので、恐れ入りますが、またご協力をお願いいたします。
なお、今週の4日、金曜日に放課後児童クラブ検討部会について、第1回会議を開催いたします。放課後児童クラブ検討部会に所属される委員の方は、どうぞよろしくお願いいたします。以上でございます。

（森会長）
ほかに何かございますでしょうか。

（飯塚委員）
資料6の3番目の「新潟市子ども・子育て会議委員構成について」という項目ですが、主婦の方が3名いらっしゃって、その全てがワーキングマザーであったが、働く母親でなく、専業主婦の意見も同じように傾聴する必要があるのではないか。母親が働くことを支援するだけの制度ではなく、子どもの教育の質の向上を中心に進めてもらいたい。この項

目に非常に関心を持ったのですが、これは事務局に今後、ご配慮いただきたいと思います。

（森会長）
事務局、どうでしょう。

（事務局：こども未来課長）
先ほどちょっと回答したのですけれども、ワーキングマザーだけではなく、いろいろな方々が公募しておりますし、田巻委員も公募でございますけれども、そういういろいろな立場の方を公募してございます。また私たちもこれから、いろいろな立場のご意見をお聞きしていくというのは心掛けていきたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

（森会長）
それでよろしいでしょうか。ありがとうございました。

（平澤委員）
ちょっとよろしいですか。

（森会長）
はい。

（平澤委員）
一番後でございますので、手短にいたします。
資料 2 の 3 ページにあるのですが、私も実は分からないというか、判断がつかないので、確認させていただきたいというか、教えていただきたいです。3 ページ（3）調査の対象者の抽出について、対象が行政区 8 区ごとに可能なサンプル数を確保できる配布数を設定、各区 750×8 で 6,000 件とあるわけなのですが、こういった調査はやはり各区全部同じように 750 件と設定するものなのか、あるいは何か考慮すべきことなのか、私もちょっと判断がつかないので、私がかくあるべしという意見はないのですが、ちょっと確認がてらご質問というか、ご意見というか、問題提起させていただきたいのですが、いかがなものでしょうか。

（森会長）
はい。これは各区 750 件という根拠は基本的に違うのではないか。つまり人口比がこのとおりかということを言われているのと同じかと思います。80 万 5,000 人の人口比がこの比になっているのかということを言われていると思いますが。

（事務局：こども未来課企画管理係長）
私も統計学上、詳しくないので、またこの後、業者の方で詳しく説明していただきたいと思います。聞いた中でいくと、母集団がいくら大きくなっても、最低限必要な数というのは変わりないということなのですが、その理解が正しいのかも含めて。

（委託業者）
それでは、私の方から説明させていただきます。区ごとの対象者数でサンプル数を抽出させていただきました。その場合、人口の大きいところ、少ないところ、680 とか 710 とか、大体 700 を超えるか超えないかぐらいのところで全ての 8 区の必要サンプル数が抽出されましたので、一応、今のところ、回収率は 50%程度ということで設定させていただいております。若干、そこに上乗せいたしまして、全ての区におきまして、必要サンプル数を確保して、区切りがいいというわけではないのですけれども、750 ずつということで、私どもの方から新潟市様の方に提案させていただいた次第でございます。

（森会長）
人口比から算出し、必要サンプル数を確保し、それでも大丈夫だということですので、よろしいでしょうか。どうぞ。

（みの委員）
すみません。今の理論ですと、最終的に国の方に区ごとで報告をされるのであれば構わないのですが、仮にそれを市としてまとめたときに、ある一定の人口係数を掛けないと、今の理論だとおかしくなると思うのですけれども、データの揺らぎが出るはずですけれども、どうですか。

（委託業者）
市全体ということでしょうか。

（みの委員）
その前に、まず国にどういう報告をされるのですか。区ごとのデータを提出するのですか。それとも、最終的に新潟市として全体をまとめて国に報告するか。まずそこをお答えいただいた上で、もし新潟市としてまとめて送る場合は、その揺らぎの問題。平澤先生が多分、心配されているのはそこだと思うのですよ。そこについてのご回答が今なかったようなので、お願いします。

（委託業者）

国の方には新潟市全体ということで恐らく報告することになると思うのですが、その際は新潟市をさらに 8 区に分けて細分化しておりますので、それをいわゆる足すというわけではないのですけれども、区ごとに必要サンプル数が十分確保されておりますので、当然、8 区を合わせた上で、新潟市全体でも確からしい数字が出ると捉えております。

（みの委員）
要は人口配分の修正をきちんと入れた上で、8 区を足し合わせると確認させていただいていいですか。

（委託業者）
人口配分ですか。

（森会長）
今、統計的な扱いについて、数字が大丈夫かということになるかと思うのですが。

（委託業者）
新潟市全体で見たときには、主任研究員とも相談しているのですけれども、十分確からしい数字が、揺らぎの部分も含めて出るだろうということで提案させていただいています。

（みの委員）
後で議論になったらで。

（森会長）
そうですね。750 というサンプル数はそれでいいのだけれども、後で人口比で修正をかけるかどうかの問題だけだと思いますので、それについてはまた後ほどお願いいたします。

（みの委員）
最後に一言だけ。今、問題にしているのは、区ごとに設置されている内容の違いによって、親御さんたちが感じ得る環境が変わっています。それに対して、各区を一定の数で固定することによって、ずれが出てきます。そこに対して、ちゃんときちんと修正しないと正しい全体像が浮かび上がってこないので、そこはちゃんと考慮してくださいますよねというのを答えてください。

（委託業者）
サンプル数だけの問題でお話しさせてもらいますと、本当に人口の多いところ、少ないところで、300 や 400 の開きがあるかといった場合、本当に数十ぐらい。50 に満たないぐ

らいのばらつきしか出てこなかったのです。当然、区ごとの、そういった意味で、680 とか、本来であれば 720 必要だというところで、若干のばらつきはあるのですが、全体で見たときにはそれほど大きなばらつきではなかったので、十分区ごとで足しても、新潟市のニーズということで算出していいのではないかと考えたのですが、いかがでしょうか。

（みの委員）
後にしましょうか。やはりちょっと平行みたいなので。

（森会長）
分かりました。小学校が 113 あって、中央区に 22 ありますから、児童数も随分違うのはよく分かります。ありがとうございました。それについては、また後ほどの話になるかと思いますが、以上をもちまして、今日の会議を終了させていただきます。長時間、ご協力をありがとうございました。

（事務局：こども未来課長補佐）
森会長をはじめ、委員の方々、ありがとうございました。会議を閉じる前に、田巻委員の方から情報提供が 1 件ございますので、もうしばらくお時間をいただきたいと思います。

（田巻委員）
【情報提供（文楽イベントについて）】

（事務局：こども未来課長補佐）
ちょうど時間となったようでございます。このたびも日本一子育てにやさしい都市を実現するため、熱心にご議論いただきまして、また楽しくご議論いただきまして、大変どうもありがとうございました。以上をもちまして、第 2 回目の子ども・子育て会議を閉会させていただきます。貴重なお時間をいただきまして、大変どうもありがとうございました。もしご不要な資料がございましたら、机上に置いてお帰りいただけますようよろしくお願いいたします。